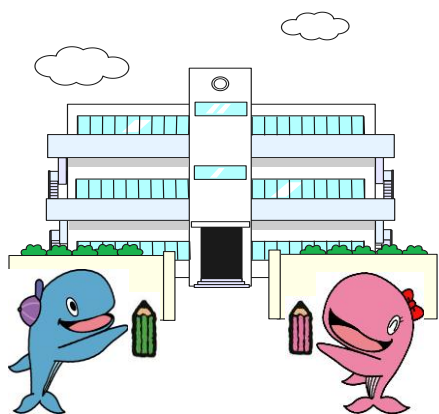
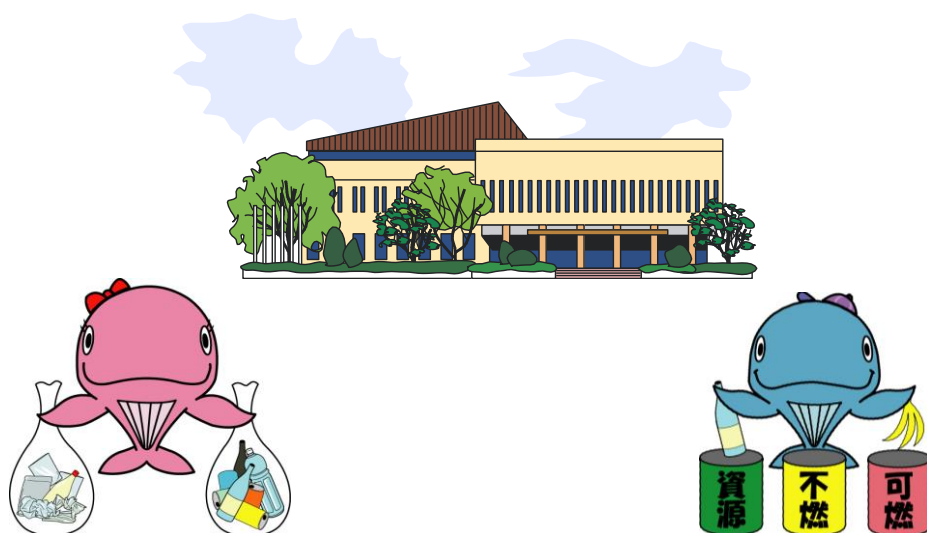




やさしい 昭島市の財政 【平成28年度決算】



平成29年10月
昭 島 市

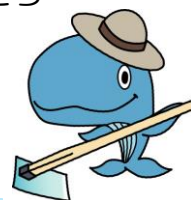


はじめに

この冊子は、昭島市の財政白書である「昭島市の財政」の平易版として作成しています。

財政白書は、財政状況を様々な側面から考察しており、地方自治体の財政状況を知るうえで非常に重要な冊子です。その一方で、専門的な表記も多く、市民の皆さんにとって身近なものではありませんでした。

そこで、昭島市の財政をできる限り分かりやすくお知らせするために、「やさしい昭島市の財政」を作成しました。作成に当たり、自治体の財政についてあまり関わりのない方や学生の方々にも読みやすいように工夫しています。これを読んでいただき少しでも昭島市の財政について関心をもっていただけたら幸いです。



目次

I 財政	1
II 歳入（税金）	3
III 歳入（税金以外の歳入）	6
IV 歳出	11
V 市債と基金（借金と貯金）	15
VI 財政状況	19

この冊子を読むに当たって・・・

この冊子は、昭島市公式キャラクターの

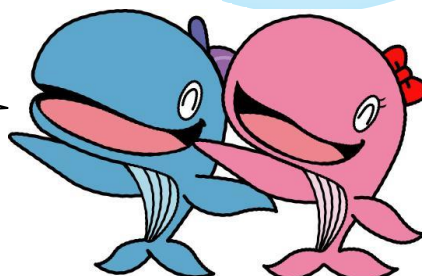


アッキーと



アイランが会話をする形式で内容を構成しています。

私たちが、昭島市の
財政を分かりやすく
説明します！



（昭島市公式キャラクター アッキー＆アイラン）

※ 各表の計数は、原則として表示単位未満を四捨五入し、端数整理をしていないため、合計額等と一致しないことがあります。

※ 本冊子中の「26市」とは、昭島市を含む東京都内26市です。

昭島市公式キャラクター アッキー&アイラン プロフィール



名前：アッキー（♂）
性格：元気、食いしん坊
好きなもの：学校の給食
好きなこと：サイクリング
特技：サッカー



名前：アイラン（♀）
性格：おしゃべり好き、きれい好き
好きなもの：お花、アクセサリー
趣味：ショッピング
特技：小物作り



I 財政

財政ってどんなもの？



アイラン「景気は回復してきたのに、まだまだ国や市役所の財政が厳しいってニュースで聞いたよ。そもそも、『財政』ってどういうものなの？」



アッキー「財政とは、みんなから集めたお金をみんなのために使う仕組みのことで、みんなが住んでいる昭島市の家計のようなものだよ。みんなが会社からもらう給料などで生活しているように、昭島市もみんなが納めた税金、国や都からの補助金などで学校の運営や道路の工事をしているんだ。

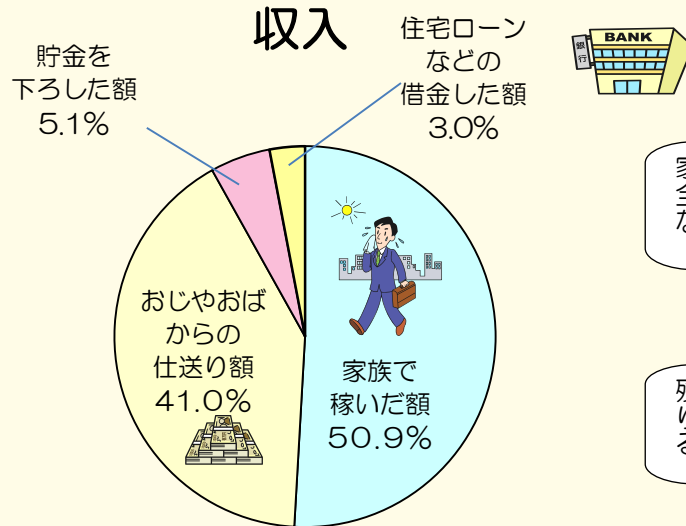
昨年度の昭島市の決算額は以下のとおりだけど、次の『表1』のように、家計に置き換えてみるとわかりやすいかな。」

平成28年度の昭島市の決算額（一般会計）

◆収入額	439億円	◆貯金残高	99億円（収入の約4分の1）
◆支出額	426億円	◆借金残高	215億円（収入の約2分の1）



表1 平成28年度の財政状況



家族で稼いだ額は、全収入の半分位しかないんだ。

残りの半分は、仕送りや借金に頼っているんだ。

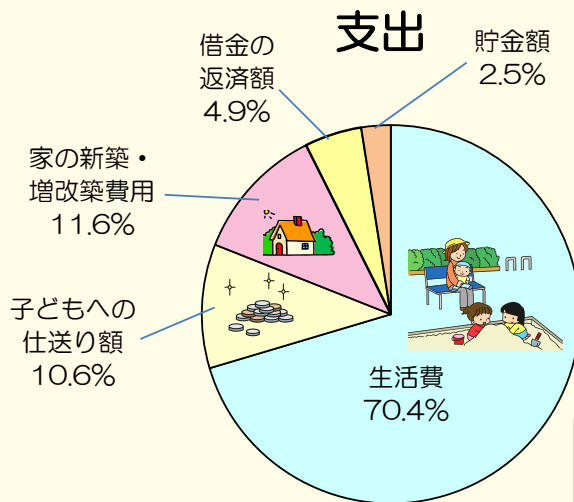
< 収 入 >

家 族 で 稼 い だ 額：市税、使用料・手数料、分担金・負担金など

おじやお婆からの仕送り額：国庫支出金・都支出金、地方譲与税、地方交付税、各種交付金

貯 金 を 下 ろ し た 額：基金繰入金

住宅ローンなど借金した額：市債



こう見ると色々な収入と支出があるのね。

< 支 出 >

生 活 費：人件費、扶助費、補助費等、物件費など

子どもへの仕送り額：繰出金

家の新築・増改築費用：建設事業費

借 金 の 返 済 額：公債費

貯 金 額：積立金





Ⅱ 歳入（税金）



税金とは？



「まずは一般会計の『歳入』について見てみよう。『一般会計』とは、福祉、教育、ごみの処理など広く住民に対して市役所が行う事業に関して、基本的な収入や支出を管理している会計のことだよ。」

また、『歳入』とは、4月から3月までの1年間に市町村に入ってくるお金のことなんだ。歳入には色々なものがあるけど、まず『税金』から話すね。」



「そもそも税金って何のためにあるの？」



「税金は、防災、消防、道路の整備といった『みんなのために役立つ活動』、医療、介護、福祉などの『社会での助け合いのための活動』、学校の運営や教材費などの『教育のための活動』などに使われているんだ。つまり税金は、みんなで社会を支えるための『会費』といえるね。税金は下の『表2』のように何種類もあって、このうち『市町村税』の欄の税が『市税』として昭島市に納められるんだ。また、東日本大震災の影響を受けて復興のための増税がされたんだ。」



「そうなんだ。ところで、復興のための増税ってなに？」



「その内容は、市民税の均等割額が、平成26～35年度までの10年間は5百円増えたり、会社を退職する時にもらう退職金にかかる税金の控除が、平成25年1月1日以降の支払いに係る分から廃止されたんだ。その増税分のお金は昭島市内の防災や減災のために使われるんだよ。」

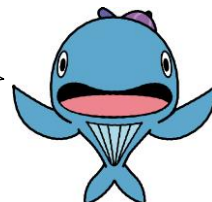


「知らなかったわ。災害に強い街づくりを進めてほしいわね。」

表2 税金の種類

	国税 (国に納める税)	地方税（都道府県・市町村に納める税）	
		都道府県税	市町村税
直接税 (税金を負担する人が直接納める税)	所得税 法人税 贈与税 相続税など 	都道府県民税 事業税 自動車税 など 	個人市町村民税 法人市町村民税 固定資産税 軽自動車税など 
間接税 (物を買ったりした人が負担し、お店等が納める税)	消費税 酒税 たばこ税 関税など 	地方消費税 都道府県たばこ税 ゴルフ場利用税 など 	市町村たばこ税など 

地方税のうち「市町村税」の部分が昭島市に納められる税金なんだ。





平成28年度の市税収入の特徴

「それじゃあ、平成28年度は昭島市にどれ位の税金が入ったの？」

「全部で190億円納められたんだ。その内訳は下の『表3』のようになるよ。

平成28年度の市税の収入は平成27年度に比べて約2億円減って、一番市税収入が多かった平成19年度と比べると11億8千万円も少ないんだ。」

表3 平成28年度市税収入の内訳

個人市民税  69億5816万円	法人市民税  12億8839万円	固定資産税  83億7995万円
都市計画税  14億9912万円	市たばこ税  8億1118万円	軽自動車税  1億1262万円

合計額190億4942万円（市民1人当たり16万8894円）



「そんなに……。何が原因なのかしら？」



「市税のうち、個人が納める個人市民税は6千万円増えたけど、会社などが納める法人市民税は円高が原因で、海外にたくさんの製品を輸出している会社の利益が減ってしまった影響で3億5千万円も減ってしまったんだ。だから、昭島市の財政は厳しい状況が続いているんだ。」

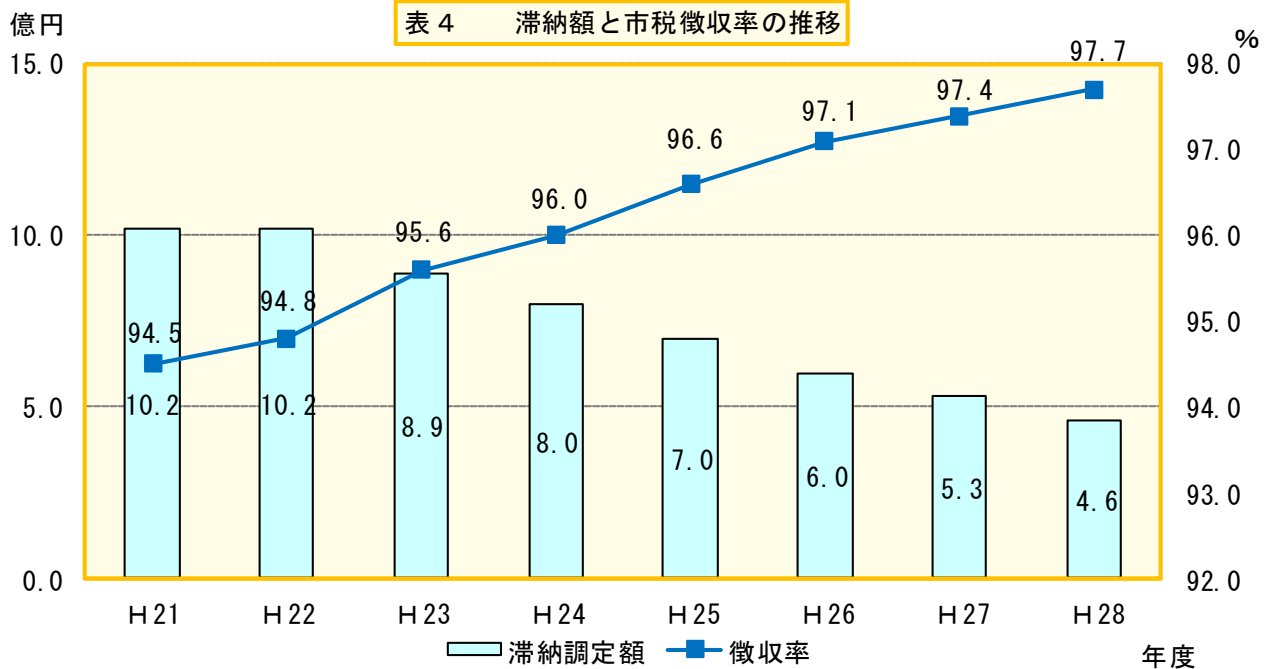


「平成19年度と比べると、どの位なの？」



「個人・法人合わせて平成28年度の市民税が82億5千万円だったのに対して、平成19年度は95億3千万円だったから、比べると12億8千万円も減っているんだ。会社やそこで働く人たちの収入が減るのは大変だけれども、そうなると国や市町村に納める税金も減ってしまう。昭島市の収入である税金が少なくなると、昭島市が行うサービスのやり繰りも大変なんだよ。また、市税を期間内に納めてくれない『^{たいのう}滞納』も問題になっているね。次のページの『表4』を見て。」





「市税がどれくらい納められたかを『徴収率』というんだけど、平成28年度は、97.7%だったんだよ。平成27年度に比べると徴収率は良くなったけど、それでも滞納額はまだ4億6千万円にもなるんだ。」

「払われていない税金ってそんなにあるの!？」

「色々な事情があって税金を納められない人もいるけれど、みんなに公平に税を負担してもらわなくてはいけないから、昭島市ではコンビニエンスストアやクレジットカードで納税できるようにして、税金を納めやすくしたりしてるんだ。他にも、休日に窓口を開いて収納をお願いしたり、夜間に収納をお願いするための電話をするなどして、これ以上滞納額が増えないように頑張っているんだって。」

「徴収率も平成27年度と比べて0.3ポイント増えるし、これ以上滞納額が増えないためにも頑張ってもらいたいけど、やっぱり、みんなに自分からきちんと税金を払ってもらいたいな。」

「歳入には、ほかにどんなものがあるのかしら?」

「それでは、ほかの歳入について見てみよう。」

みんなちゃんと税金を納めてほしいわね。





Ⅲ 歳入（税金以外の歳入）



税金以外の歳入



「市町村の歳入には、税金のほかに主なものとして^{こっこししゅつぎん}国庫支出金・^{とししゅつぎん}都支出金、^{しやうりよう}使用料・^{てすうりよう}手数料、^{ぶんたんぎん}分担金・^{ふたんぎん}負担金、^{ちほうこうふぜい}地方交付税、^{しさい}市債といったものがあるんだ。どんなものなのか、それぞれ順番に見てみよう。」



国庫支出金・都支出金



「まずは『国庫支出金・都支出金』だよ。」



「それってどんなお金なの？」



「ちょっと聞きなれない言葉だけど、これは、特定の事業を行うために国や東京都から市町村へ補助されるお金のことなんだ。昭島市の収入としては、税金の次に多く、歳入全体の約3割を占めているんだよ。」



「へえ～、『特定の事業』ってどんなものがあるの？」



「例えば、平成28年に学校で大掛かりな工事をしていなかったかい？」



「うん。校舎の増築やプールの改修工事をしていたよ。あっ！それが『特定の事業』なんだね。」



「そうなんだ。学校のほかにも、拝島駅の南口を通っている都市計画道路3・4・2号の建設費や、東中神駅自由通路等整備事業などもそれに当たるよ。」



「こうやって見ると、色々な工事をやっているのね。でも、いろいろな工事をしているけど、工事ってすごくお金がかかるんじゃないの？」



「そうなんだよ。でも厳しい財政状況の中でも、昭島市だけだと実施するのが難しい事業も、費用の全部又は一部を国や東京都が補助してくれることによって事業が実施できているんだ。そのお金を歳入の中で『国庫支出金・都支出金』と呼んでいるんだよ。」



「ふ～ん。次は？」





使用料・手数料



「次は『使用料・手数料』だよ。これは、みんなが市町村の施設を利用するときに支払うお金や、ごみの収集袋を買うときに支払うお金などのことなんだ。」



「例えば、駅の近くに昭島市の自転車駐輪場があるよね。」

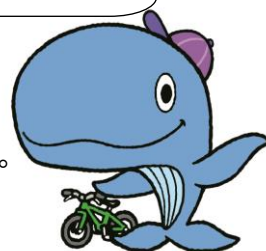


「ああ。この前、自転車を停める人が、100円を払っているのを見たわ。」



「自転車駐輪場はいつもきれいに自転車が並んでいるよね。利用する人たちが、いつも気持ち良く利用することができるように管理をしているんだけど、平成28年度では約1億5千万円ものお金がかかっているんだ。そのため、利用する人たちから使用料というお金を払ってもらって、自転車駐輪場の管理費にあてているんだよ。」

昭島市には駐輪場が17箇所あるんだよ。



「じゃあ、手数料ってどんなものがあるの？」



「生活すると必ず出るのが『ごみ』だよ。」



「うん。お菓子を食べた後の袋や、ジュースを飲んだ後のペットボトルなどいろいろな『ごみ』が出るわね。」



「市町村の代表的な市民サービスとして、ごみの収集や処理の業務があるんだけど、昭島市では『燃えるごみ』や『燃えないごみ』などを出すときには、コンビニエンスストアやスーパーなどで売っている昭島市が指定したごみ収集袋を買って、ごみを出さなければならないんだ。」



「ということは、ごみを出すにはお金がかかるってことなの？」



「そうなんだ。昭島市には約11万3千人が暮らしているんだけど、当然、ごみもたくさん出ることになり、ごみの収集や処理に係る経費は年間17億7千万円くらいかかっている。そこで、昭島市は、ごみを減らすことも目的として平成14年度からごみ収集の有料化を実施したんだ。昭島市が指定したごみ収集袋の購入代金手数料になり、平成28年度は約2億円の収入があったんだよ。」



「使用料と手数料って、1年間にどの位の収入があるの？」



「平成28年度はおよそ9億1千万円で、歳入全体の2.1%を占めているよ。」



「そんなにあるんだ！」





分担金・負担金



「今度は『分担金・負担金』だよ。あまり聞かない言葉だけど、どんなものだと思う？」



「分担、負担・・・？」



「市町村が行っている特定のサービスを受ける人が、サービスを受けるために負担する（支払ってもらう）お金のことだよ。たとえば、私立保育園に通うときに保育園に支払うお金は、保育料という『負担金』なんだよ。」



「保育園に通うのにどうしてお金を払う必要があるのかしら？」



「保育園を運営するにはたくさんのお金がかかっているんだ。そこで、保育園の運営に必要な費用の一部を保護者に負担してもらっているんだよ。」



「知らなかったわ。ほかには？」



地方交付税



「ほかには『地方交付税』というものがあるよ。これは法律で定められた一定の基準によって、国に納められた所得税などの税金の一部が、国から都道府県や市町村へ配分されるお金のことなんだ。地方交付税は『普通交付税』と『特別交付税』の2つがあって、簡単にいうと『普通交付税』は国が定めた基準によって計算された収入が支出よりも少ない場合に、その分を国が配分して交付する制度なんだ。これにより、私たちが日本のどこの市町村に住んでいても教育や福祉など一定水準の行政サービスを受けることができるようになっているんだ。」



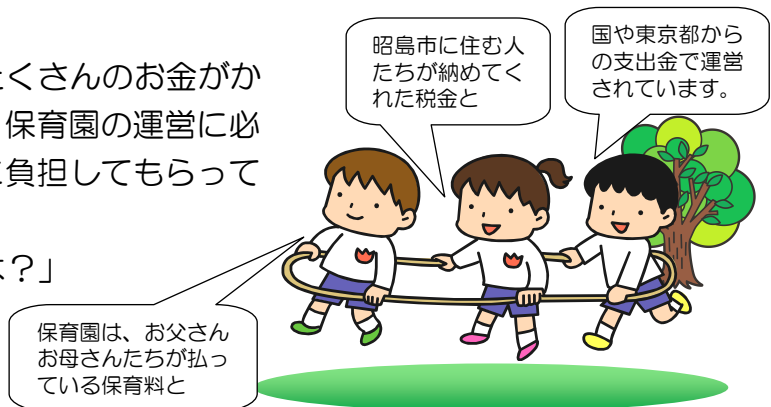
「じゃあ、全国の都道府県と市町村が『普通交付税』をもらっているの？」



「平成28年度では、47都道府県のうち、東京都だけがもらっていないんだよ。国が定めた基準によって計算された支出より税金などの収入の方が多かったからなんだ。東京都は、昭和29年度に現在の地方交付税制度ができてから、一度も『普通交付税』をもらっていないんだ。また、東京都の39市町村のうち平成28年度に『普通交付税』をもらっていないのは、立川市や武蔵野市などの10市1町で、昭島市も景気低迷の影響から市税収入が減ったことなどにより、平成22年度からは『普通交付税』をもらっているんだよ。」



「じゃあ『特別交付税』は？」



 「『特別交付税』というのは、地震や台風、大雪などの自然災害の発生により受けた被害から復興するための費用や除雪費用など、急にお金が必要になった時に国から交付してもらうお金なんだよ。」

 「なるほど～。昭島市には『普通交付税』と『特別交付税』は、どのくらい入ってくるの？」

 「平成28年度は2億9千万円入ってきたよ。そのうち1億6千万円が、『普通交付税』なんだ。ただ、これは市の独自の収入が少ないことを意味するので、決して良いことばかりではないんだよ。」

 「そうなんだ。」

 「それから、平成23年度から震災復興特別交付税という制度ができたんだ。例えば、車を買うと自動車取得税という税金がかかって市の税収となるけど、震災の被災者に対してはこの税金が安くなる制度があるんだ。そこで、市の税収が減ってしまった分を、被災者に代わって国が市に支払ってくれるんだ。これが震災復興特別交付税というものなんだよ。昭島市は平成23年度から平成27年度まで交付されていたんだ。」

 「いろいろな種類の交付税があるのね。」



市債

 「それ以外にも市債というものがあるんだ。簡単にいうと借金による収入なんだけど、詳しくは『市債と基金』のページで説明するね。」

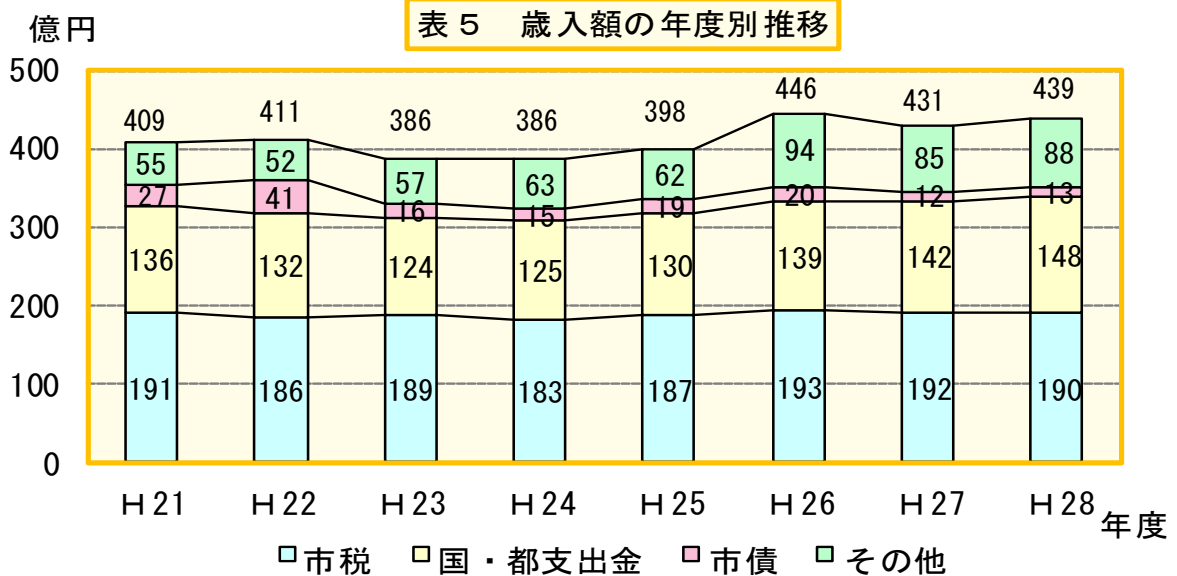


平成28年度の歳入の特徴



「それでは平成28年度の歳入の特徴を見てみよう。」

景気は回復しつつあって、個人市民税は昨年度より少し増えたんだけど、さっきも話したとおり、円高が原因で、海外にたくさんの製品を輸出している会社の利益が減ってしまった影響で法人市民税が減ったため、市税全体では1億7千万円減って190億5千万円になったんだ。それから、国庫支出金・都支出金が5億9千万円増えて148億2千万円に、特別会計や市の貯金（基金）から繰り入れるお金である『繰入金』が、16億4千万円増えて22億5千万円になっているね。歳入全体では平成27年度より8億円増えて439億5千万円となっているよ。」



「なるほど。全体の収入は増えたのね。」

「上の『表5』で詳しく見てみよう。例えば国・都支出金が平成27年度と比べて6億円増えているんだ。これはさっき説明したとおり、特定の事業を行うために国や東京都から市町村へ補助されるお金だね。また、表ではその他に含まれている諸収入が、立川基地跡地の整備のために国からもらった負担金が減ったことなどで5億円減ったけど、特別会計や市の貯金（基金）から繰り入れるお金である『繰入金』が16億円増えたことなどから、その他の歳入額が3億円増えているんだ。でも、これらのお金の多くは使い道が決まっているお金だから、自分たちで自由に使えるお金ではないんだ。単純に歳入の増減だけではなく、こういった種類の歳入が増えたかが、重要になるんだよ。」

歳入のうち「市税」が増えると、使い道が限定されない収入になるので、ある程度自由に使えるお金が増えることになります。





IV 歳出

何にお金を使っているの？



「歳入の主なものは、これまで話したとおりだよ。じゃあ今まで話してきた収入が、どの様に使われているのか、次に『歳出』について話すね。

歳出とは、4月から3月までの1年間に市町村が使うお金のことだよ。昭島市では平成28年度に426億1千万円のお金を使ったんだよ。」



「そんなに使ったの！？でも、何にお金を使ったのかよくわからないわ。一体、どんなことにどれ位のお金を使ったの？」



「金額も大きいし、想像もつかないよね。じゃあ、市民1人当たり、何のためにいくら使ったのかを見てみよう。下の『表6』は、平成28年度に昭島市が使ったお金を1人当たりの金額にした表だよ。赤ちゃんからお年寄りまで、1人1人にこれだけのサービスが提供されたことになるよ。」



「福祉のために使われているお金が一番多いのね。」

表6 何のために使ったの？

民生費 福祉サービスを行うために使ったお金 保育園の運営 人件費 管理運営経費 など  18万3838円	土木費 道路の整備や管理のために使ったお金 設計・建設費 人件費 管理運営経費 など  4万4459円	総務費 税金の徴収などを行うために使ったお金 人件費 管理運営経費 など  4万2621円
教育費 教育などを行うために使ったお金 学校の教材費 学校管理費 スポーツ施設管理費 など  3万8408円	衛生費 衛生的な生活を送るために使ったお金 予防接種 人件費 ごみ処理経費 など  3万690円	公債費 借りていたお金を返すために使ったお金 市債の返済  1万8649円

※その他(消防費・議会費・労働費・農林費・商工費)1万9146円



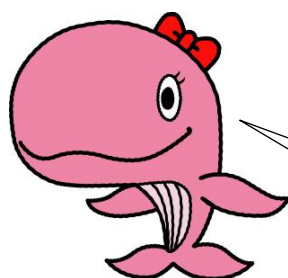
「『表6』は、何のためにお金を使ったかを示した表なんだ。もう一つ、次のページの『表7』を見てみよう。今度の表は、どんなことにお金がかかったかを示した表だよ。」



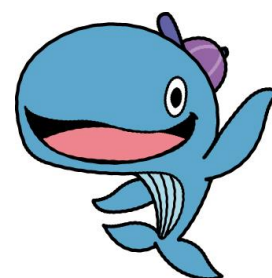
表7 どんなことにお金がかかったの？

扶助費 福祉サービス自体にかかった お金 児童手当 生活保護費 など 13万1220円 	物件費 行政サービスを運営する ためにかかったお金 通信運搬費 委託料 賃借料 など 5万4948円 	人件費 職員の給料などにかかった お金 市長や職員の給料 議員や委員の報酬 など 5万1259円 
普通建設事業費 建物を建てること自体に かかったお金 道路建設費 学校の芝生化 など 4万3694円 	繰出金 他会計や基金へ渡したお金 3万9938円 	補助費等 補助金などとして支払った お金 補助金 謝礼金 など 2万6260円 

※その他(公債費・積立金・維持補修費・投資及び出資金・貸付金) 3万492円



平成28年度は1人当たり
37万7811円分のサー
ビスを提供したことになるよ。



2つの表を見ると、福
祉関係への支出が圧倒
的に多いわね。

「一番払っている金額が多いのは、『扶助費』なのね。具体的には、どういうことをするの？」

「例えば、児童手当を支給したり、保育園を運営したりするのに必要なお金や、障害者や生活に困っている人たちを支援するためのお金のことだよ。昭島市は多摩地域の26市の平均と比較しても扶助費の額が大きいんだ。この『扶助費』については、これから給付する基準やどのくらい本人に負担をしてもらうかなどについて、もっとよく考えていく必要があるんだ。」

「良いサービスを提供しつつ、お金がかからないように考えるってことね。難しいわね。」



平成28年度の歳出の特徴



「次に、平成28年度の歳出の特徴を見てみよう。」



「うん。」



「平成28年度の歳出は、私立保育所運営費や障害者自立支援給付費などの増により扶助費が8億1千万円増えたり、学校の増築等の工事や東中神駅自由通路



等整備事業などにより普通建設事業費が12億円も増えているんだ。一方で、立川基地跡地整備のために国からもらった負担金が減ったことなどで、基金（貯金）への積立金が8億円も減ったんだ。結果として総額では平成27年度より6億円の増加となったんだ。主な事業は、下の『表8』のとおりだよ。」

表8 平成28年度の主な事業

心ゆきかう あきしま（明るい地域社会の形成）	
社会保障・税番号制度対応	6080万円
防災行政無線等デジタル化	4320万円
コンビニエンスストア証明書等交付システム導入	3579万円
ともに支え合う あきしま（健康と福祉の充実）	
がん検診	1億2638万円
保育園新築・改修工事費補助	6346万円
生活保護法に基づく扶助	42億9311万円
未来を育む あきしま（教育・文化・スポーツの充実）	
拝島第一小校舎増築等工事	2億2741万円
瑞雲中大規模改造（西側便所改修）工事	7606万円
（仮称）教育福祉総合センター整備	1億2041万円
環境をつなぐ あきしま（循環型社会の形成）	
昭島市と岩泉町との環境連携交流	126万円
住宅用新エネルギー機器等普及促進補助	399万円
ごみの減量化・資源化	7億5480万円
基盤を築く あきしま（快適な都市空間の整備）	
東中神駅自由通路等整備	25億8855万円
都市計画道路3・4・1号整備	2億3553万円
都市計画道路3・4・2号整備	1億1505万円
躍動する あきしま（産業の活性化）	
産業振興計画策定	324万円
昭島ブランド構築・推進	785万円
認定農業者支援	5019万円
計画の実現のために	
参議院議員・市長・東京都知事・市議会議員補欠選挙	1億1729万円
動画制作・発信	174万円

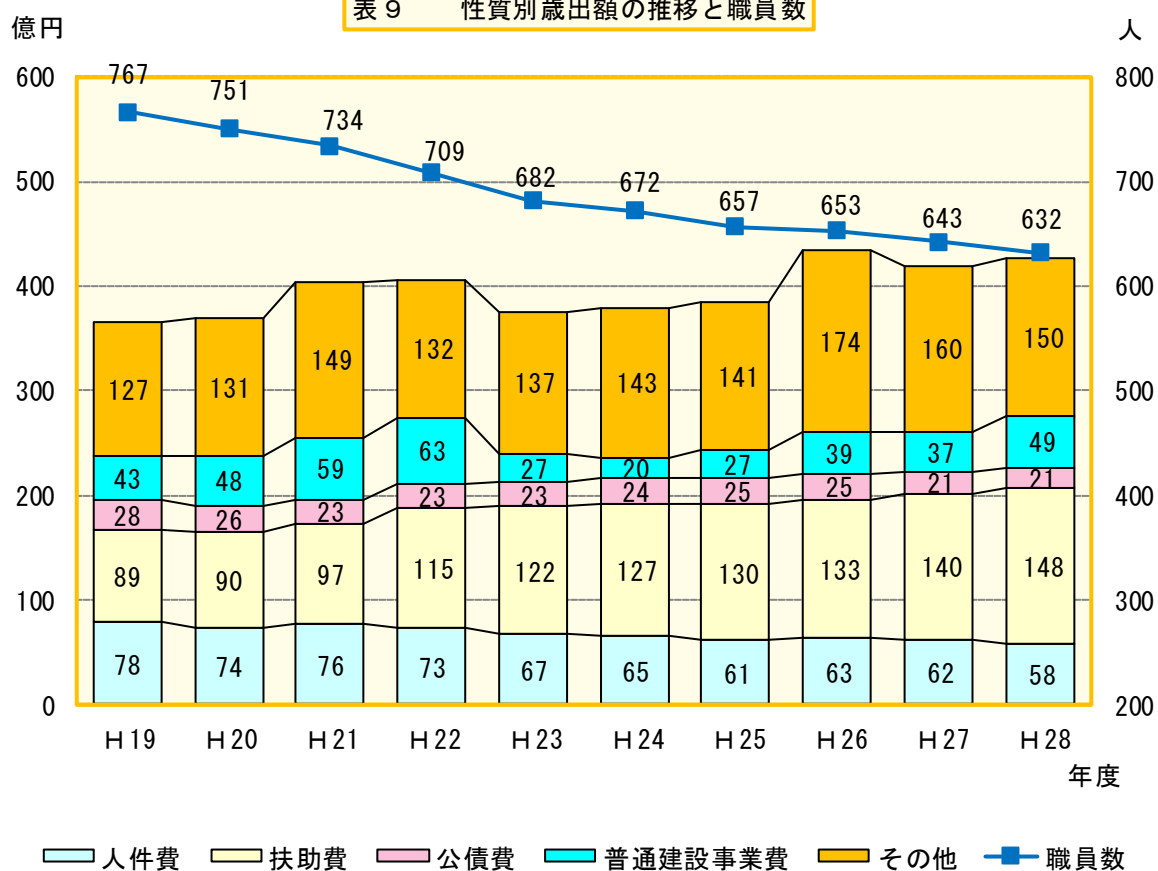


「実際に目には見えないけれど、昭島市は色々なことにお金を使っているのね。これも、みんなの税金などで払われているんだから、大切に使わなくちゃ。」



「そうだね。また、『表9』のとおり扶助費が増える傾向にあって、9年前に比べると1.7倍位に増えているんだよ。歳入は簡単には増えないから歳出を減らすしかないんだ。そのため、昭島市では、市役所運営の効率化を進めながら、職員数の見直しも行った結果、9年前に比べ職員数を135人、人件費では20億円ほど減らしたんだよ。」

表9 性質別歳出額の推移と職員数



人件費 扶助費 公債費 普通建設事業費 その他 職員数



平成28年度は、扶助費と普通建設事業費がたくさん増えていることがわかるね。



市税など自由に使えるお金が増えない中、扶助費などのお金を減らすことはできないので、我々もいろいろな仕事を効率よく見直すとともに、職員数を減らしたりして、なるべくお金がかからないように努力しています。





V 市債と基金（借金と貯金）



市債



「歳出のページでは、昭島市も厳しい財政状況の中、頑張っているのがよくわかったわ。ところで、前のページの『表9』にある公債費^{こうさいひ}って、歳入のページで話してくれた市債^{しさい}と何か関係があるのかしら？」



「公債費とは過去に借り入れた借金を返済するお金のことなんだ。それでは、次に昭島市の借金と貯金について見てみよう。

まずは市の借金である市債から説明するね。昭島市もわたしたちと同様にお金がない場合には、国や東京都などからお金を借りて工事のお金などを支払ったりしているんだ。昭島市が借金をする場合、『市債』という債券^{しやくよう}（借用証書^{しゅうしよ}のようなもの）を起こして借りるんだ。だから市の借金を一般に市債といい、市債を発行することを『起債^{きさい}』というんだよ。市債は借金だから、当然のことながら借りたお金（元金）を返すときに、利子も付けて返済しなくてはいいけないんだ。だから起債するときは注意をしなくてはいいけないんだよ。」



「だったら、起債なんてしなければいいんじゃない？」



「そうだね。もちろん借金は少ない方が良くないけど、起債をすることには大きな意味があるんだ。では、ここで問題。市町村はその年に必要なお金を原則としてその年度に入った収入で支払っているけど、この方法で建物などを作った場合、その後に昭島市に引っ越してきた人たちは、そのお金を払うことになるのかな？」



「建物を作ったときに住んでいた人たちが払った税金で建てていることになるから、タダでことになるんじゃないかしら？」



「そのとおり。建物や道路は長い間使用することになるよね。1年後に昭島市から引っ越す人もいれば、10年後に産まれてくる人もいる。その人たちにも公平にお金の負担をしてもらうにはどうしたらいいかな？」



「使用する年数で、費用を分けて払えば良いと思うわ。」



「そうだね。10年使用するなら費用を10年分で割り、毎年みんなで公平に負担して払えばいいよね。市債を返す場合は、20年とか長い年月をかけて返すことになる。平成28年度の公債費は、利子を含めて約21億円を返済しているんだよ。」



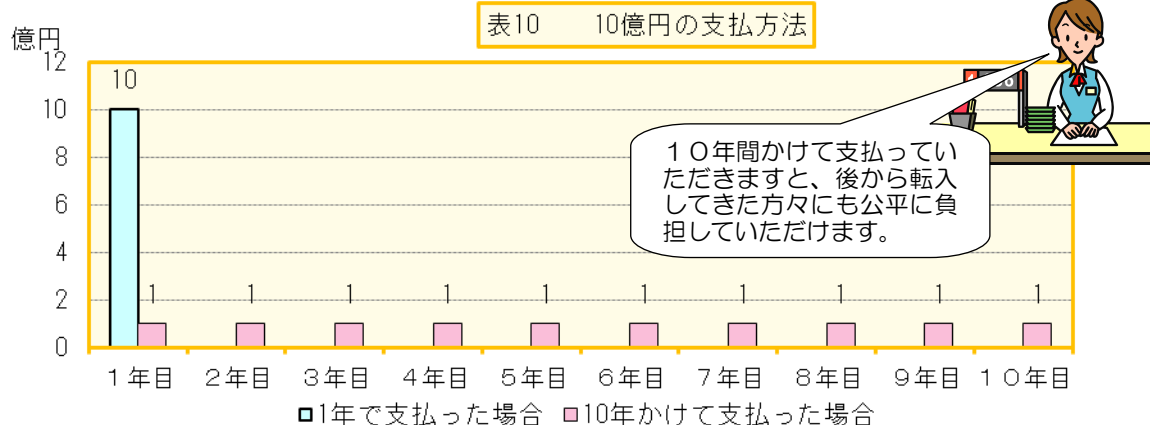
「みんなが使うものは、みんなで負担することね。」



「そのとおり。次のページの『表10』のとおり借金をする理由には、世代間でお金の負担を公平にするための役割もあるんだ。」

期限を守って、きちんと返してくださいね。



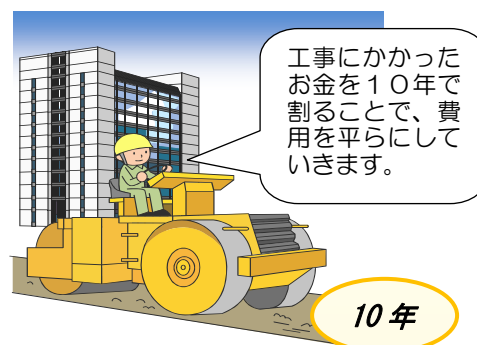


「そうなんだ。じゃあ市町村が借金をするのは建物とか道路を作るときだけなの？」

「原則としては、建物や道路を作るときなどに借りる「建設事業債」と呼ばれるものしか借りてはいけないんだ。ただ、例外として「赤字地方債」という借金をするときがある。これは言葉のとおり歳出が歳入より多くなり、借金をしなければ赤字になってしまう場合などに臨時で借りるお金なんだ。」

「けど、やっぱり借金はしないほうが良いんでしょ？」

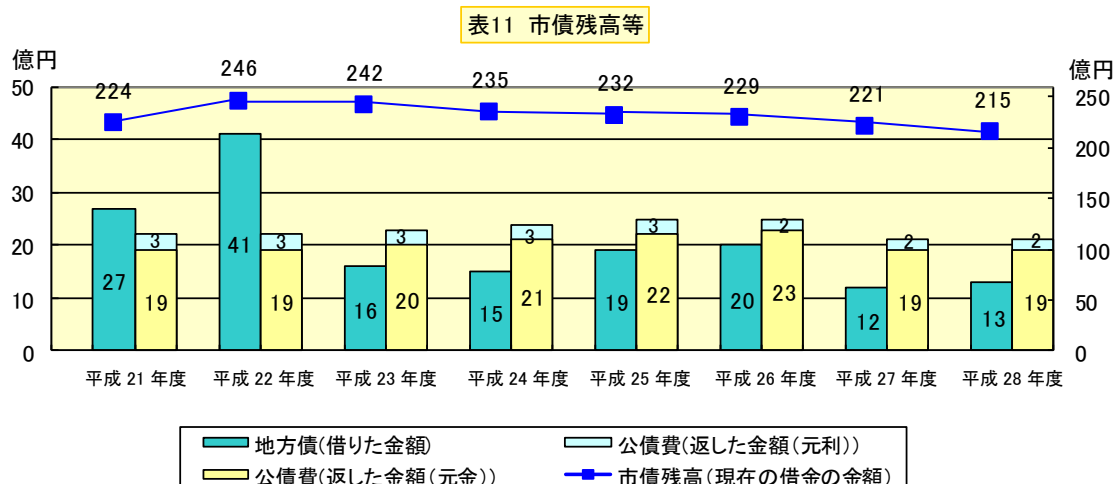
「そうだね。けれど現在のような不景気の状況では、赤字地方債を借り入れないでやりくりするのは難しいんだ。」



平成28年度の市債の特徴

「じゃあ、昭島市の借金の状態はどんな感じ？」

「下の『表11』を見てごらん。ここ8年間にお金を借りた金額、返した金額、そして借金の残高が載っているよ。平成28年度は13億円を借りて19億円の元金を返していることがわかるね。」





「平成28年度は、東中神駅自由通路整備事業や拝島第一小校舎増築等工事、道路整備などに使うための借入れや法人税の減収分を補うための減収補填債の借入れ、財源不足を補うための臨時財政対策債の借入れを行ったんだよ。」

※減収補填債・・・法人税等が、普通交付税にて計算された収入額より下回ると見込まれる場合に、この減収を補填するために特別に発行することができる地方債

※臨時財政対策債・・・市町村の財源の不足を補うために特例として発行される地方債



「今後も大変な状況は続くの？」



「そうだね。昭島市では今後、立川基地跡地の開発や、それに伴う東中神駅周辺の整備、（仮称）教育福祉総合センターの建設など多くの建設事業の予定があるんだ。だから建設事業債を借りることが今後も増えるかもしれないね。そして、さっきの赤字地方債だね。『表11』では市債残高は総額しか載っていないんだけど、市債残高の半分以上が赤字地方債なんだ。さっきも言ったように赤字地方債は例外的に認められた借金だから多くなってしまうのは問題だね。だけど、景気が回復しないと赤字地方債をさらに借りなくてはいけないかもしれないんだ。」

市債は利子も含めて返さなくてはいけないんでしょ？
だったら必要最低限のお金だけしか借りないように頑張っておこう。



基金



「市債が借金ってことはわかったわ。じゃあ、貯金はないの？」



「貯金もちちゃんとあるよ。市の貯金のことを基金というんだ。基金には、景気が悪くなって歳入が減ったときなどに対応するための『財政調整基金』や、（仮称）教育福祉総合センターの建設など、一時的に多額の費用がかかる特定の事業に対応するための『特定目的基金』があるんだ。その年の歳入が減ったからといって、市民サービスにかかるお金は払わなければいけないから、そういう時に対応するために、しっかりと貯金をしておかなきゃいけないんだ。家計でも同じように、学費や家の増改築などの将来の負担に対応するために貯金をしているけど、それと同じで、今は大変でも、できるだけ貯金をするようにしているんだ。」



「ふ～ん。じゃあ、昭島市の貯金額はどうなの？」



「次のページの『表12』を見てごらん。ここ8年間の基金がどれくらいあるのかを示した表だよ。」



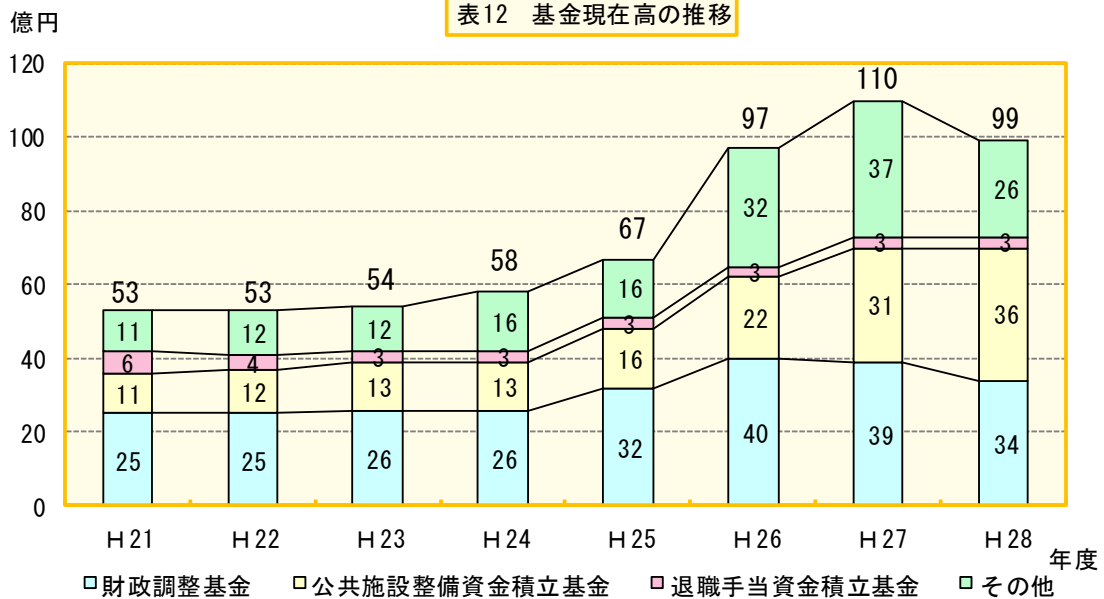
「平成27年度に比べて11億円減っているのね。」



「基金には、歳入が減ったときに対応するための貯金と、特定の事業を行うための貯金があるって説明したよね？それぞれの貯金の状況について、『表12』で詳しく見てみよう。」

将来のお金が必要になりそうだから、基金に多めに積み立てておこう。





例えば『公共施設整備資金積立基金』の現在高は、平成27年度と比べて5億円増えている一方で、その他の項目に含まれている、『立川基地跡地昭島地区周辺都市基盤整備基金』の現在高は13億円減っているんだ。これは、立川基地跡地の整備を目的に国からもらって積み立ててきた基金（貯金）を東中神駅自由通路等整備事業などのために14億円取り崩したからなんだ。これらの貯金は使い道が限定されているから、もしもの時などに自由に使える貯金ではないんだ。だから単純に基金の残高の増減だけを見るのではなく、こういった種類の基金が増えたかが、重要になるんだ。

そこで、歳入が減ったときなどに対応するための『財政調整基金』の現在高についても見てみよう。平成28年度は34億円になって、平成21年度と比べて9億円増えているよ。

景気がまた悪化した場合に、12ページで説明した扶助費が増え続けたとしたら対応できるかな？そのときに財政調整基金でしっかりと対応できるように備えておかなければいけないね。だから市債と同じようにきちんとした管理が必要になるんだ。」



「貯金もいざという時の備えとして重要なんだね。だけど、借金を減らし貯金を増やすには、無駄なものを買わなければいいんだよね？だったら、昭島市も無駄な支出を抑えることはできないのかな？」



「支出を減らすことは市民サービスの低下につながりかねないから、なかなか難しいんだよ。さっきも言ったとおり扶助費はここ10年で減るところか1.7倍位に増えている。だから、みんながなるべくお金を使わないよう協力しないといけないんだよ。」

いざという時の備えとして、基金の額を増やしていく必要があるんだね。



VI 財政状況



昭島市の財政状況は？



「どうかな？昭島市の財政のこと、少しはわかってきたかな？」



「う～ん、昭島市が色々なことをやっているってことはわかったわ。でも、昭島市の財政状況って良いのかな？それとも悪いのかな？平成18年度に北海道の夕張市が『財政再生団体』になったというニュースを思い出して、ちょっと心配になってしまったわ。」



「そうだね、財政状況を知りたいときは色々な指標（数値）を使ってチェックすればいいんだよ。例えば、さっき市債や基金の残高を説明したけど、これらも財政状況を判断するための大事な指標だよ。もちろん、市債の残額はできるだけ少なくて、基金の残高はできるだけ多いほうが良いよね。」



「確かにそうね。でも、貯金があって借金がなくても、暮らしにくい街だったら、私は住みたくないわ。」



「そうだね。確かに市町村の仕事は、住民にとって暮らしやすいまちづくりを進めることから、それだけでは判断できないよね。だから財政状況を表す指標は一つだけじゃなくていくつもあるんだ。例えば、代表的なものとして『経常収支比率』や『実質公債費比率』というものがあるんだけど、どんな指標なのか、それぞれ見てみよう。」



経常収支比率



「まずは『経常収支比率』だよ。これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、必ず支払わなければならないお金がどれくらいあるのかを示す割合のことで、各市町村の財政にどれくらいの余裕があるかを表しているんだよ。この数値が低いほど、市独自の事業など自由に使えるお金が多いということ。つまり、建物や道路をつくるなどの臨時的な経費に対応しやすくなるんだよ。」



「……。」



「少し、わかりにくいかな？例えば1人暮らしの会社員であるAさんとBさんという人がいて、それぞれ毎月30万円の収入があるとする。でも、2人はこの30万円を好きなことに自由に使えるかな？」



「それは無理よ。だって、生活するためには食費とか家賃がかかるでしょ。」

「そうだね。この食費とか家賃とかは、生活をしていくには必ず必要で使い道が決まっているお金ということになるよね。例えば、食費や家賃が合計で月15万円しかかからないAさんと、月24万円かかってしまうBさんでは、どちらがお金に余裕があるだろう？」

収入に対して、必ず支払わなければならないお金の割合が高いと、自由に使えるお金が少なくて困るなあ。



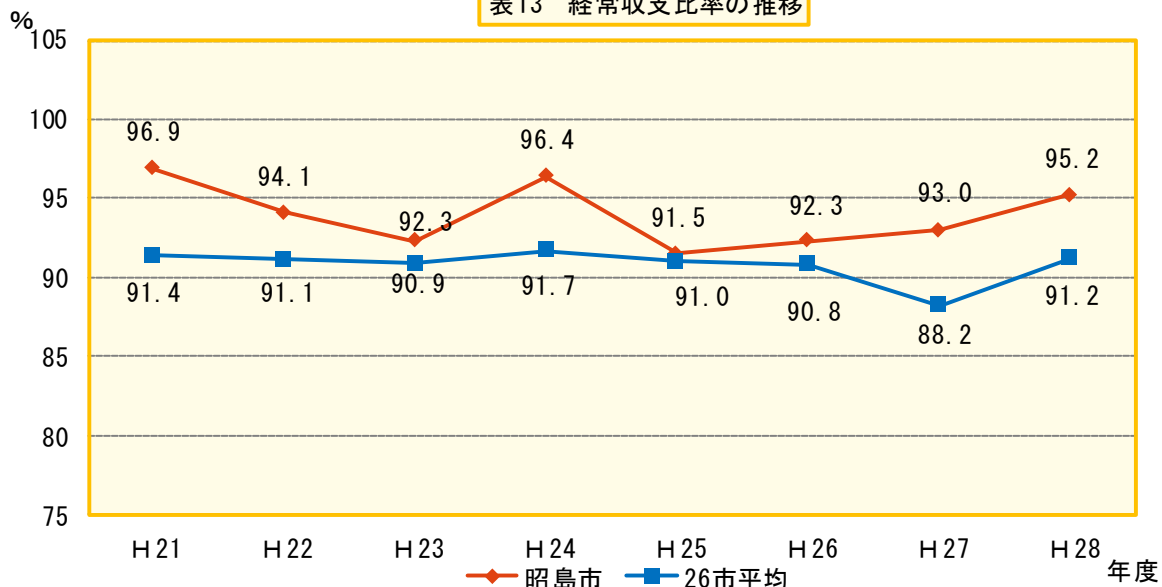
「それは簡単。Aさんに決まっているわ。」

「そう。Aさんの方が毎月必ず支払わなければならないお金が少ないから、経済的にはAさんの方が生活に余裕があるはずだね。経常収支比率というのは、これを市町村の一年単位の収入と支出で計算したものなんだ。AさんとBさんをそれぞれ市に見立てると、A市とB市の経常収支比率はそれぞれ50%、80%ということになるんだよ。」

「お～、確かにこういうやり方なら市町村の財政状況がよくわかるわね。じゃあ、昭島市の経常収支比率は何%なの？」

「下の『表13』を見てごらん。」

表13 経常収支比率の推移



経常収支比率は、高い状態が続いているので、柔軟な対応がしやすい状況です。



「平成27年度より2.2ポイント高くなって、経常収支比率は95.2%？それって、1億円収入があっても、そのうち9520万円は使い道が決まっているってこと？」



「そうなんだ。もちろん多摩地域の26市の平均が91.2%だから、昭島市だけがとりわけ高いってわけではないんだ。でも、26市の平均より4ポイント高いし、一般的には経常収支比率が80%を超えると財政に余裕がなくなるといわれているから、それに比べたらかなり高い数値ということになるね。」

「原因はなんなのかな？」

「主に2つの原因があると思うよ。一つは歳入の大黒柱である『市税』の収入がなかなか回復しないことかな。さっき例で出したAさんの給料がもし月18万円になってしまったら、当然生活に余裕はなくなってしまうよね」

「たしかに。じゃあもう一つの原因は？」

「もう一つの原因は、歳入は減っているのに毎年必ず支払わなければならないお金（行政サービスの部分）が減っていないことだね。特に歳出のところでも出てきた扶助費は年々増えていて、減る見込みはなかなか立たないんだ。昭島市の職員の給料などは減っているけれど、退職金も含めると大幅に減らすことは難しい状況だね。」

「う〜ん、昭島市の財政は想像以上に大変なのね・・・」



実質公債費比率

「続いて『じっしつこうさいひりつ実質公債費比率』だよ。公債費という言葉から想像できるように借金の返済額に関係があるよ。これは、市税のように毎年入ってくるような収入に対して、一般会計（P.1で説明）の借金に加え、それ以外の水道事業会計、下水道事業会計や市が関係する組合（多摩地域の26市のごみを処理している組合など）などの借金を市がどれだけ負担しているかを示す割合のことだよ。」

「??？」

「私たちの家計に置き換えてみよう。私たちの家計を1年単位で見て、給料などの収入に対して、住宅ローンなどの借金の返済がどれくらい占めているかという割合なんだ。」

「へ〜、それなら少し身近に感じられるわね。」

「銀行などから借りているお金が返せなくなると、とても大変なことになるから、給料などの収入を考えながら、借金の返済額が多くなりすぎないように気を付けなくちゃいけないんだ。」

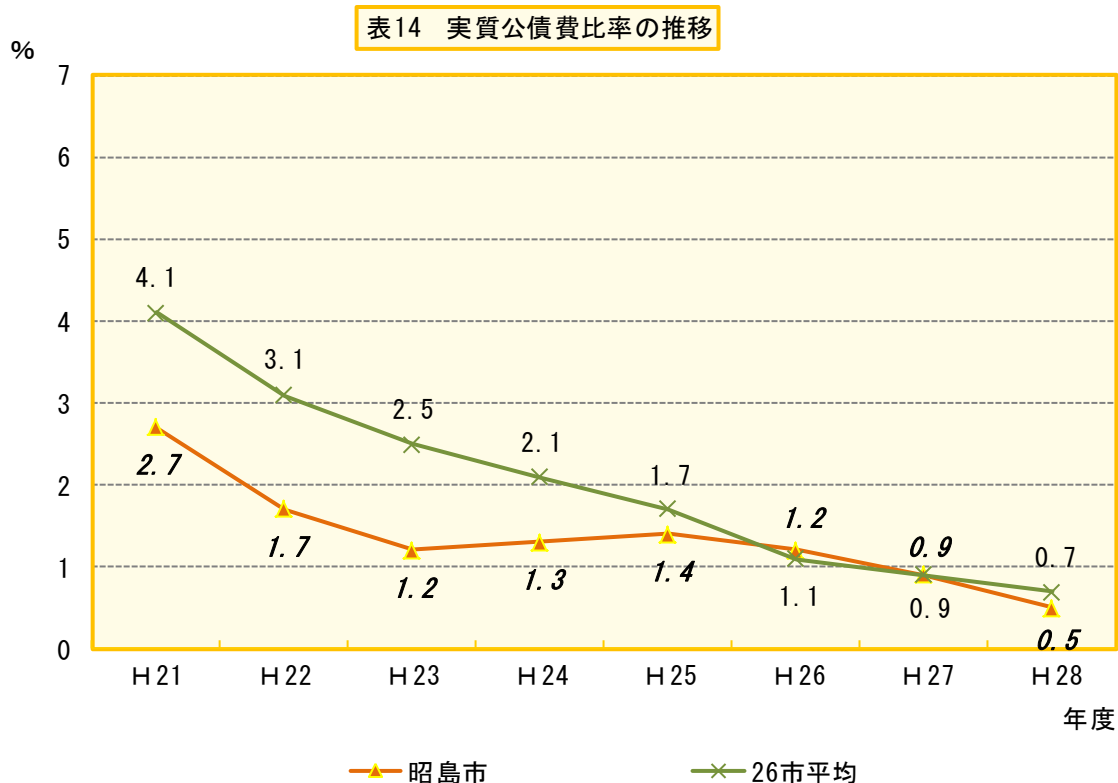
「率が低いのと高いのはどちらが良いんだろう？」

「実質公債費比率は借金の割合を示す数値だから、なるべく低い方が良いんだ

よ。18%を超えてしまうと借金するときに、国の許可が必要になってしまうんだ。」

「えっ！市が借金をするのに、国の許可が必要だなんて、大変だ。昭島市の実質公債費比率は何%なの？」

「下の『表14』を見てごらん。」



「平成28年度の昭島市の実質公債費比率は0.5%で、26市中12番目に低いんだよ。」

「へ～、確かにこういう表を見ると、昭島市が大幅に借金に頼ることなく、財政運営を行っていることがわかるわね。」

現在の昭島市の財政状況をまとめると・・・

「最後に現在の昭島市の財政がどんな状況にあるのか、考えてみよう。」

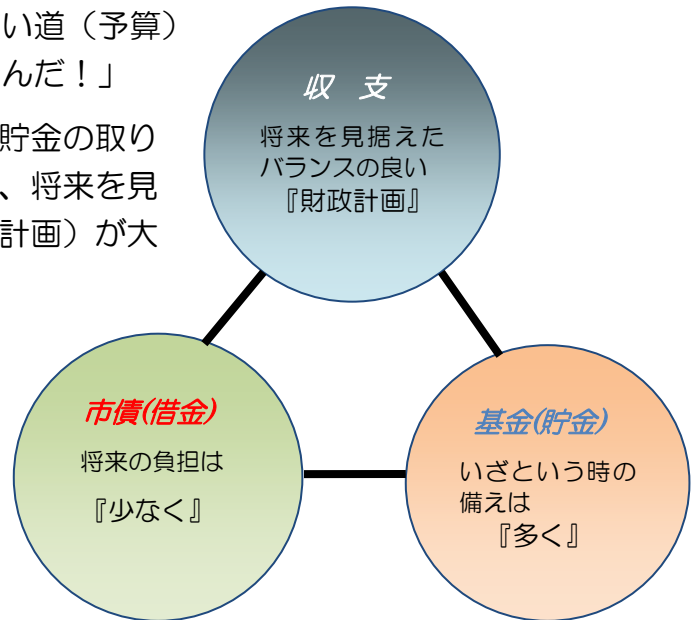
「さっき見た指標からも財政は健全だし、余裕があるんじゃない？」

「本当にそういえるかな？景気が回復してきたといっても、市税がどこまで回復するかはわからないし、一方で扶助費などの社会保障に係る経費の増や公共施設の老朽化への対応、その他大規模な建設事業を予定している昭島市の財政状況は、健全ではあるけど、決して余裕のある状況ではないよ。」

「えっ！そうなの！？」

「そこで大事になってくるのは、中・長期的に将来の財政計画（見通し）をたて、これから先の状況を視野に入れた上で、今のお金の使い道（予算）のバランスを良くすることが大事なんだ！」

「私たちの家計と同じで、市の財政も貯金の取り崩しや借金に頼ってばかりではなく、将来を見据えたバランスのとれた収支（財政計画）が大事ってことね！」



「これまで色々な面から昭島市の財政状況を見てきたけど、昭島市の財政が前よりもわかってくれたかな？」

「うん、わかった！」

「それなら、良かった。今回は簡単な部分しか教えてあげられなかったけど、昭島市の財政状況は広報やホームページでも年に数回公表されているよ。もっと詳しく知りたくなったら、のぞいてみてね！」

昭島市では、昭島市公式ホームページや広報紙で、下記の財政情報を公表しています。

□公式ホームページ URL <http://www.city.akishima.lg.jp/060/070/index.html>

当初予算大綱・概要、補正予算概要

上半期財政状況・下半期財政状況・決算状況

決算カード、財政状況資料集、比較分析表

健全化判断比率及び資金不足比率の状況

財政白書（昭島市の財政）、財務書類



昭島市中期財政計画

□広報あきしま

当初予算：4月1日号

決算：10月15日号

上半期財政状況：12月1日号

下半期財政状況：6月1日号

※広報でのお知らせ時期は前後することがあります。

